

しまね学校図書館活用コンクール

取組の概要

学校名 川本町立川本小学校

1 応募部門 ※ 応募する部門に○

- (○) 読書活動部門
() 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

- 図書館活用計画に沿った学校図書館の利用を計画的に実施し、豊かで確かな学びのある学校図書館を目指す。
- 自分なりのめあてを掲げ、その達成に向けて主体的に関わる読書活動を推進し、よりよい読書習慣の形成を目指す。
- 読書への興味関心を高める計画的継続的な委員会活動に取り組み、読書の楽しさを知らせる。

3 実践の概要と成果（☆成果・★課題）

①全学年読書ノートに挑戦

年度始めの職員会で、図書館使用や読書の記録の仕方についても共通理解を図り、全校児童に読書ノートを持たせている。学習活動や朝読書、休日の家庭読書の記録を奨励している。

読書ノートの記録では、自分の目標を掲げ、読書カードに記録している。月末には、どんな本を何冊読んで書いたかを『こんな本読んだよ』カードに集計をして、掲示コーナーに掲示し、全校児童への周知と本人への賞賛の機会としている。一ヶ月掲示した後、個人に返している。多読者には賞状を出しているが、多読の奨励というよりも集計をすることにより自分の読書を見つめる契機とすることを目的として取り組んでいる。集計は、物語とそれ以外の本に分類して集計をしている。

賞状のめやすは以下の通りである。

- 【低学年】一月に10冊以上記録した。
- 【中学年】一月に7冊以上記録した。
- 【高学年】一月に4冊以上記録した。

☆毎月もらった賞状は、読書ノートに貼っている。毎日書き
ためることにより表現力の向上につながっている。

☆継続して取り組むことにより、書くことへの抵抗感が減った。

★学年があがるにつれ、記録することへの個人差がある。

②ボランティアグループ・教職員による読み聞かせ

本校では、毎日朝読書の時間を設けている。始業前の8時20分から8時30分までの10分間である。毎月2回、地域のボランティアグループ（ルピナス）の方に学校に来てもらっている。低・中・高学年でボランティアと教職員の一人ずつで行っている。記録と照らし合わせ、重複しないよう配慮している。

また、学年部20冊のおすすめ本を選定してもらい、学年の終わるまでには読破できるよう働きかけている。支援員さんに、朝の読み聞かせの時間や1教科学習の始めなどに時間を設定して紹介をしてもらうなど、おすすめ本の読破を奨励している。年度末の読み聞かせは、毎年卒業生へのお祝いをこめ、昨年は生伴奏付きやハンドベルの演奏付きの読み聞かせをしてもらった。毎年趣向を凝らした活動が行われる。読み聞かせの最後には、卒業生一人一人へプレゼントを手渡してもらい、卒業児童に限らず在校児童も、いろいろと工夫された読み聞かせの日を全校児童は楽しみにしている。

☆読み聞かせだけでなく、ブックトークやお話会などにより、本への興味関心が高まった。

☆地域との連携により、地域全体で子どもたちを見守り豊かな心を育んでもらっている。

☆いろんな読み手から、本の感動を伝えてもらうことにより、読書意欲が高められる。

③全校児童による読書作品展

本校では、秋の読書週間に合わせて、各学級で本への関心を高める活動に取り組み、町の図書館祭りに毎年展示している。

各学年で、本と関わる学習の中で作品を作り、ほぼ1か月間展示される。

☆期間中、さまざまな催しの中で地域の多くの人目に触れ、地域を挙げて読書をすすめる力になっている。

☆一人一人のおすすめの本から、思いを込めた作品にしていける。個性豊かな作品が生まれた。

- 1年生：自分のおすすめ本の感想画とおすすめのポイントを書いて紹介した。
- 2年生：手作りおもちゃの紹介と作品
- 3年生：自分のおすすめ本の帯
- 4年生：自分のおすすめ本のしおり
- 5年生：伝記のブックカバー
- 6年生：宮沢賢治作品のポスター

④家庭読書への広がりをめざす企画（わくわく読書貯金・わくわく読書集会）

本校の読書週間期間中、本に親しむ時間を家族で共有してほしいという願いから、期間を決めて読書貯金を貯める活動と呼びかけた。名付けて“わくわく読書貯金”。

まず、自分でどのくらいの読書時間をどのようにして作ることができるかの目標を決めた。（平日は？ 休日は？〇分？期間中で〇冊？など…）

昨年は自分一人の読書記録であったが、今年度は家族の誰と読書時間を共有できたかという項目も設定し、読書の輪が家庭の中で広がってほしいと願った。事前に図書館便りで知らせ、家庭読書へつないだ。

【結果】☆多くの家庭で、家族の誰かと一緒に読書したという結果が出て、読書が広がった。

（1回もしなかった：1年 0人 2年 2人 3年 3人
4年 5人 5年 10人 6年 15人）

☆2週間の期間中の学年最多読書時間とその児童の読書冊数や目標である。

学年	読書総時間	読破数	平日・休日目標	達成方法	家族読書
1年生	9時間	20冊	30分・60分	ねるまえは本をよむ。	14日全部
2年生	20時間	35冊	60分・120分	おとなをさそっていっしょに読む。	11日
3年生	10時間	14冊	30分・60分	べんきょうの後に読む。	10日
4年生	20時間30分	18冊	60分・120分	空き時間は読書。ねる前は読書！	14日全部
5年生	7時間31分	30冊	30分・60分	宿題をした後すぐに読む。	0日
6年生	15時間40分	20冊	30分・60分		3日

☆自分で立てた目標読書時間や冊数を達成した人が多かった。

★学年があがるにつれて、家族間のコミュニケーションの実態が感じられる。一人で読書する児童が多く、読書と呼びかける日数は減っている。

★読書が習慣化するまでにはなっていないのではないかな。

本校では毎学期図書委員会児童による集会やイベントを企画している。名付けて“わくわく読書集会”。

- 1学期：学年児童を招いてのイベント
- 2学期：わくわく読書集会
- 3学期：図書館祭り

諸行事で多忙な中、業間休みや昼休みの時間を使って、練習をし、実施に至った。メンバーの少ない中での活動である。委員会児童のお話会や各学年での図書館を活用した取組を紹介し合った。本校読書週間の前日に、わくわく読書集会を1時間設定した。委員会児童からのアイデアを取り入れ、プログラムを組んだ。お話会の練習は、予想を超えて大変であったが、得るものは多かった。

☆学年を超えての共同活動で、互いに影響し合いながら活動を展開できた。

☆地域の諸行事と関連させながら、読書活動の働きかけをすることにより、家庭での読書に広がる可能性が高まった。

☆子どもたちからのアイデアを取り上げて企画することにより、委員会活動での役割を意識でき自信につながった。

☆委員会児童が楽しんで取り組むことができれば、学校全体への読書意欲の喚起に結びつく。3学期の図書館祭りに向けて、2学期の活動後に手作りのパネルシアターの準備に取りかかった。お話を決め、パネルシアターに使うパーツを準備した。「時間がかかるから昼休みを使ってしよう！」と呼びかけると、

進んで給食後や業間休みに集まり活動をしていた。来学期の実施が楽しみである。